

米 穀 情 勢

1. 3年産販売動向

全農における3年産主食用米の6月末の販売実績は1,178千ト(前年比98%)となっていますが、一昨年との比較では大幅に下回っています(前々年比91%)。

主な要因として、コロナ禍による需要の減少や、生産年翌年11月以降持越(古米)在庫の増加(30年産12万ト→元年産22万ト→2年産42万ト)による年産切替の遅れ等が考えられます。

【図表1】主食用米の契約・販売状況(3年産6月末、実出荷ベース)

単位:千ト

年産	販売計画	契約	販売実績												合計
			7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
3年	2,127	2,022	5	14	43	90	92	106	90	112	144	163	144	176	1,178
2年	2,155	1,789	3	19	37	95	83	111	99	121	151	165	143	179	1,206
元年	2,037	1,757	5	17	42	106	106	132	117	135	180	171	112	178	1,300
3/2	99%	113%	183%	73%	114%	94%	111%	95%	91%	93%	95%	99%	101%	98%	98%
3-2	▲28	233	2	▲5	5	▲6	9	▲5	▲9	▲9	▲7	▲2	2	▲3	▲28
3/元	104%	115%	95%	81%	101%	85%	88%	80%	77%	83%	80%	96%	129%	99%	91%
3-元	91	265	▲0	▲3	0	▲16	▲13	▲26	▲27	▲23	▲37	▲7	32	▲3	▲122

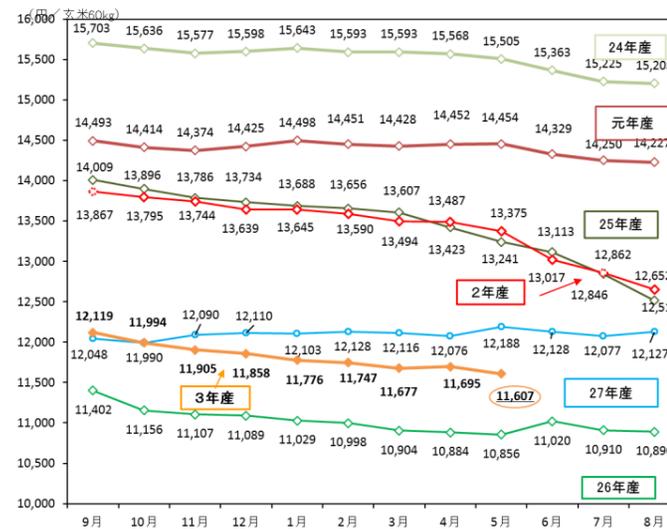
注1)ラウンドの関係で合計が合わない場合がある。
注2)販売数量は、実出荷ベース。

2. 価格動向

農林水産省が公表した3年産5月相対販売価格(税別・裸換算)は、11,607円/60kgと前月差▲88円、前年同月▲1,768円となりました。

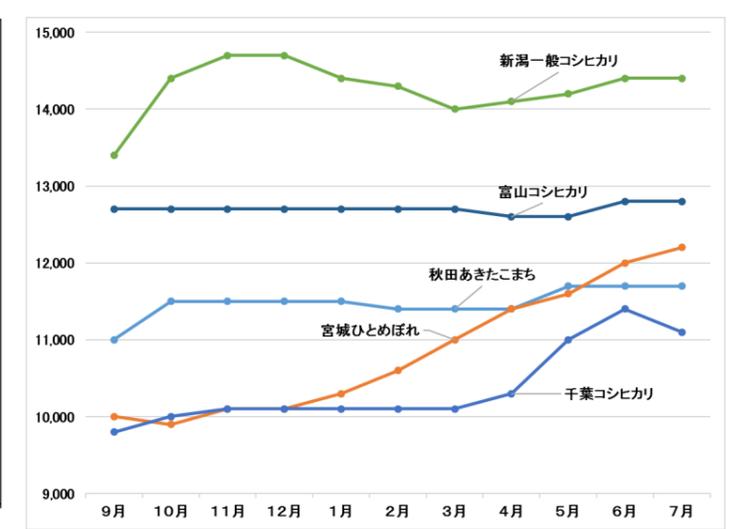
4月は15か月ぶりに価格が上昇しましたが、5月価格は前月、前々月を下回りました。また、7月上旬における市中価格は、一部の産地銘柄において上昇が見られます。

【図表2】相対取引価格の推移



(備考)農林水産省公表相対価格にもとづき作成。包装代・消費税相当額を控除した価格。

【図表3】市中価格の推移



3. 4年産の計画生産の動向

農水省は、4月末時点の作付意向調査結果をもとに、全国の主食用米作付面積を前年▲3.5万haと試算しており、平年作生産量に換算すると677万ト程度となります。

全中・本会調査によれば、6月末時点の作付動向(速報値、一部県は5月末以前)は、全国672万ト(前年平年作▲24万ト、▲4.4万ha、▲3.4%)となり、国の需給見通し(前年平年作▲21万ト、▲3.9万ha、▲3%)を達成する見通しであるものの、JAグループの目標(649万~660万ト)には遠く及ばない状況にあります。

【図表4】令和4年産米等の水田における作付意向(4月末時点)

	主食用米			戦略作物						備蓄米	
	加工用米	新市場 開拓用米 (輸出用米等)	米粉用米	飼料用米	WCS用稲 (稲壳餅用 飼料用稲)	麦	大豆				
前年より 増加傾向	0県 [0県]	21県 [16県]	26県 [20県]	24県 [22県]	42県 [32県]	33県 [17県]	27県 [24県]	30県 [24県]	6県 [7県]		
前年並み	10県 [25県]	5県 [21県]	4県 [11県]	10県 [18県]	3県 [13県]	12県 [26県]	7県 [12県]	4県 [13県]	19県 [18県]		
前年より 減少傾向	37県 [22県]	1~3% 3~5% 5%超	30県 4県 3県	18県 [7県]	9県 [7県]	11県 [5県]	0県 [0県]	0県 [2県]	11県 [9県]	11県 [8県]	8県 [7県]

注1:令和4年産の意向(増加傾向、前年並み傾向、減少傾向)は、3年産実績との比較。
注2:比較している主食用米の3年産実績は、令和3年11月統計部公表の主食用米作付面積。
注3:加工用米、飼料用米、WCS用稲、米粉用米、新市場開拓用米の3年産実績は、取組計画認定面積。
注4:麦・大豆の3年産実績は、地方農政局等が都道府県再生協議会等に関与した面積(基幹作)。
注5:備蓄米の3年産実績は、地域農業者再生協議会が把握した面積。

4. 今後の需給見通し

- (1) 農林水産省は、3月2日の食糧部会において、今後の需給見通しを公表し、令和3/4年主食用米等需要量は11月公表の702~706万トンを維持するとしました。
- (2) 今後の需給見通しには、作付面積や作柄、需要動向等の変動要素が多いものの、農林水産省が毎月発表する月次の民間在庫が前年を5~7万トン上回って推移してきていること等から、需給緩和基調は継続する見通しにあります。
- (3) 5年産米の作付においては、今後の需要動向に応じて、①前年同水準の作付け、②引続き作付転換が必要とのシナリオが想定されます。

5. 需給状況を踏まえた今後の取組み

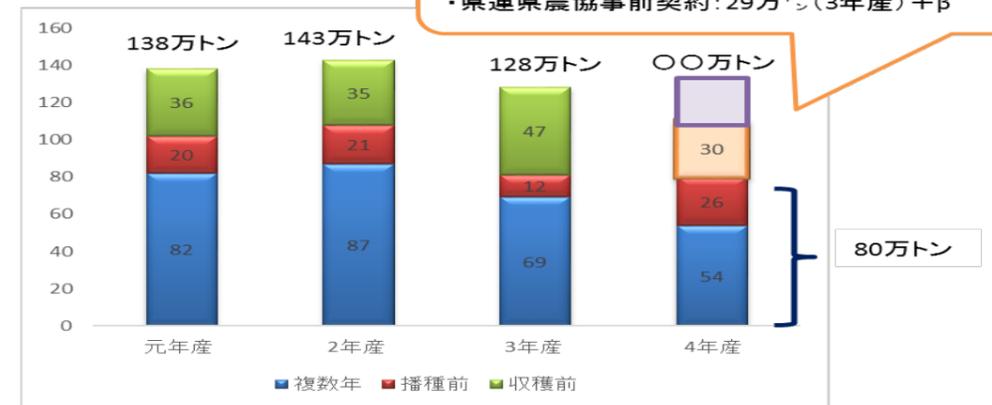
- (1) 2年産持越在庫42万トンは、特別枠15万トンおよび既存の周年事業を活用しながら、長期計画的な販売に取り組んでいます。
- (2) 3年産米は、過大な持越し在庫が見込まれることから、取引先にも協力を求めながら周年供給事業を活用した長期計画的な販売に取り組めます。
- (3) 4年産米は、需要を早期かつ安定的に確保する観点から、取引先と事前契約の積み上げをはかります。
- (4) 米の消費拡大にかかり、消費促進（お米を食べたくなる動機付けなど）、お米の魅力発信（お米は太るという誤解の払拭など）を中心に、より直接的にお米の購買行動につながる取組みを強化します。

【図表5】 今後の需給見通し（基本指針ベース）

(単位：万トン、%)

		基本指針	シナリオ		備考	
			①	②		
令和3/4年	3年6月末民間在庫量	A	218	218		
	3年産主食用米等生産量	B	701	701	平年作696万トン	
	供給量計	C=A+B	919	919		
	需要量	D	702~706	696	Eからの逆算、前年▲8万トン	
	4年6月末民間在庫量	E=C-D	213~217	223	前年+5万トン	
令和4/5年	4年6月末民間在庫量	E	213~217	223		
	4年産主食用米等生産量	F	675	672	6月末調査結果	
	(参考) 前年比較	-	▲21	▲24	万トン	
	供給量計	G=E+F	888~892	895		
	需要量	H	692	692	①基本指針どおり、②前年比▲10万トン	
令和5/6年	5年6月末民間在庫量	I=G-H	196~200	203	209	
	5年産主食用米等生産量	K	-	674	662	Nからの逆算
	(参考) 前年比較	-	-	2	▲10	万トン
	供給量計	L=J+K	-	877	871	
	需要量	M	-	682	676	前年▲10万トン
6年6月末民間在庫量	N=L-M	-	-	195	目標190~200万トン	

【図表6】 4年産収穫前契約概要



【図表7】 全農による米消費拡大に係る取組み

〇米飯食の動機付け

週末はパエリアの日
フライパン一つで簡単に作れる米料理「パエリア」を提案

DEATH丼
好きなものを好きなだけごはんに乗せて食べる、死ぬほどうまい丼

#MK3
選りすぐりの「マジでコメが食いたくなる1杯」全21種類を動画化、特設サイトやTwitter、TikTokなどSNSで展開
米に関する食品企業等(以下、一部)からも企画に賛同・参加いただいた

MAFF 農林水産省、House、ZOJIRUSHI、東洋ライス、ニシキライス、SHOWA、積屋

くまもと売れる米づくり推進本部